

企業担当者からみた化学物質の環境コミュニケーション (大正製薬の事例紹介)



2011年 2月10日
大正製薬 環境推進統括室 吉儀尚浩

本日の内容

【2009年2月18日開催（第1回）】

- ・実施までの経緯
- ・環境コミュニケーション開催当日
- ・参加者のアンケート結果
- ・実施後の感想

【2011年2月16日開催（第2回）…準備中】

- ・実施に向けての準備
- ・当社の考える、【実施のためのポイント】

【外部双方向コミュニケーション】

実施している活動	具体的な活動内容
製品の環境配慮に関する情報の提供	「大正製薬発売品要覧」(薬局薬店様などの主要なお得意様に配布している冊子)や当社HPの製品情報コーナーに、製品の環境配慮に関する情報を環境ラベルとして掲載 (現在は発展的に取り止め)
環境報告書の発行	2002年から発行、HPでも公開
大正製薬のエコレポート作成	工場見学者などに配布
エコ展示	大宮工場の見学者通路に設置(製剤2号棟)
環境展示会への出展	さいたま市環境フォーラムの他、県や市の環境イベントにブース出展
業界団体との連携	日本製薬団体連合会、日本製薬工業協会、日本OTC医薬品協会の環境関連委員会メンバーとして、連携して環境活動を推進
リサイクル団体との連携	ガラスびんリサイクル促進協議会のメンバーとして、連携してリサイクルを推進

「環境コミュニケーション」をやりたい気持ちはあったが、実施していなかった

【やりたい気持ちの背景】

- 昔はともかく、今や環境に関しても「口下手」で済ませず、**適切に対応した上で、「説明責任を果たす」**ことが企業の課題の一つ
- ステークホルダーの方々から、貴重なご意見を伺う良い機会

【踏み切れなかった理由】

- 2001年以降実施している、地下水浄化の件
- ”きっかけ“が見出せなかった
(=どこに、どのように話を持っていけば良いのか?)

以下のような“一般的な懸念”はなかった

- ・「糾弾の場になってしまうのでは？」
- ・「何か約束をしなければならない状況になるのでは？」
- ・「事前準備を含めて、相当大変になるのでは？」

実施までの経緯(2009年～第1回)

<p>2008年8月29日</p>	<p>◇埼玉県環境部青空再生課様、「彩の国 環境大学修了生の会」様が来場され、説明を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その場で受諾 ・「当社は毎年2月を環境月間として、環境に関する様々な活動を実施しており、そのイベントとして実施したい」旨をお伝えした
<p>2008年9月 ～2009年2月</p>	<p>◇生産本部・部長会でアナウンス、決定したことから逐次連絡（日程、当日スケジュール、来場者、意見交換会出席者、など）</p>

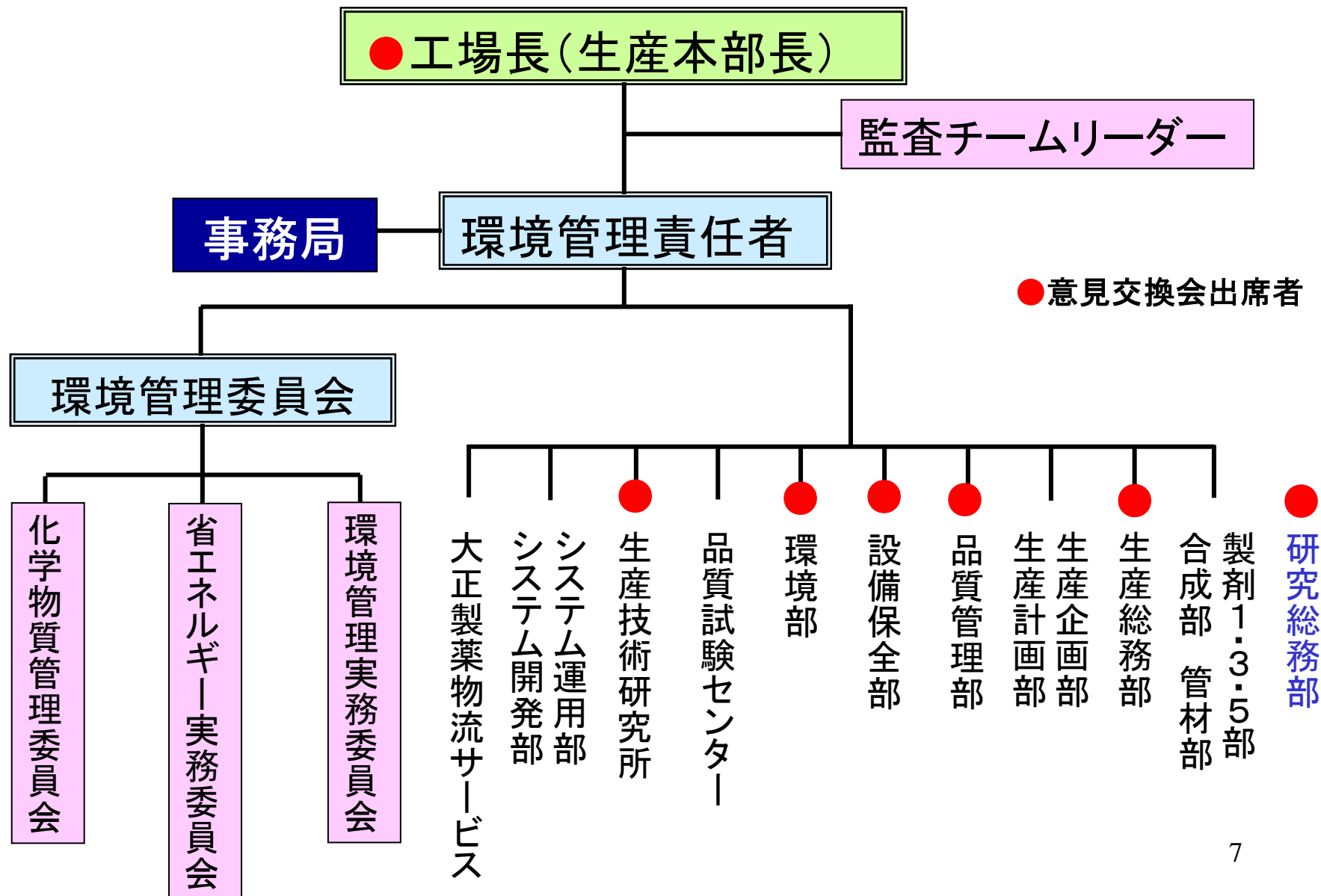
【実施に向けての打ち合わせ】

<p>2008年11月8日</p>	<p>◇「彩の国 環境大学修了生の会」の事前勉強会①に出席（県同席）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大正製薬、大宮工場、当社製品の紹介 ・大宮工場を中心とした環境への取り組み ・実施に向けての確認・調整
<p>2008年12月13日</p>	<p>◇「彩の国 環境大学修了生の会」の事前勉強会②に出席</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の質疑で、持ち帰った質問への回答 ・実施に向けての確認・調整
<p>2009年1月10日</p>	<p>◇「彩の国 環境大学修了生の会」の事前勉強会③に出席（県同席）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日のスケジュール、事前準備などの確認・調整 ・“質問出し”を傍聴
<p>2009年2月18日</p>	<p>◇「環境コミュニケーション」開催</p>

【社内での事前準備】

- 社内アナウンスでは「リスクコミュニケーション」という言葉は使わない
 - ・「**環境コミュニケーション**」とする
 - 総務部門との連携
 - ・受付対応、「会社／工場概要説明」、工場見学案内のセッティング など
 - 見学コースに組み込む部署
 - ・見学案内対応
 - 意見交換会出席者の選任
 - ・生産総務、品質管理、設備保全、生産技術、研究総務、環境
- [出席者への説明]
- **何かの取り組みを約束したり、宣言する場ではないこと**
 - **相互理解を深める場であること**
- 環境関連部署(本社、生産本部)の役割分担
 - ・総合司会、PC係、撮影係、議事録担当、プレゼン担当、見学同行、など
 - 質問事項に対する回答を集約
 - ・事前勉強会③での“質問出し”(傍聴)での内容～意見交換会着席者に割り振り

当時の大宮工場の環境管理体制 (ISO認証統合により現在は異なる)



(1)プログラム

開始	終了	項目	担当
13:00	13:20	開会宣言 主催者挨拶 挨拶	総合司会 大正製薬(工場長) 埼玉県様 さいたま市様 彩の国修了生の会様
13:20	13:25	スケジュール説明 配付資料の確認	総合司会
13:25	13:40	会社／工場概要説明	大正製薬(生産総務部長)
13:40	13:45	工場見学 諸注意事項説明	大正製薬
13:45	15:00	工場見学～2班にて	大正製薬(生産総務部) 環境部同行
15:00	15:10	休憩	

(続き)

開始	終了	項目	担当
15:10	15:35	環境への取り組みについて	環境部
15:35	16:45	環境コミュニケーション 出席者紹介 意見交換会(円卓会議)	総合司会 ファシリテーター(埼玉県様)
16:45	17:00	感想 主催者挨拶	彩の国修了生の会様 自治会代表様 さいたま市様 埼玉県様 大正製薬(工場長)
17:00		閉会	総合司会

当日、製造ラインの都合で急遽「環境への取り組み説明」と「工場見学」の順序を入れ替えた
…結果的には理解を深めていただいたように思う

(変更前) 「会社／工場概要説明」⇒「環境への取り組み説明」⇒「工場見学」⇒「意見交換会」

(変更後) 「会社／工場概要説明」⇒「工場見学」⇒「環境への取り組み説明」⇒「意見交換会」⁹

(2)参加者名簿

意見交換会参加
(17名)

区分	組織	所属	人数
行政	埼玉県 さいたま市	環境部青空再生課(課長) 環境部青空再生課(主幹) 環境部青空再生課(主査) 環境共生部環境対策課(課長) 環境共生部環境対策課(副参事)	5人
市民団体	彩の国環境大学修了生の会	会長 化学物質分科会 代表 化学物質分科会 副代表 メンバー(7名)	10人
自治会	吉野町一丁目自治会 今羽町自治会	自治会長 自治会長	2人

傍聴
(37名)

区分	組織	所属	人数
行政	埼玉県 さいたま市 川口市 越谷市 狭山市 所沢市 飯能市 (独)製品評価技術基盤機構 (社)環境情報科学センター	環境部青空再生課(主任) 環境管理事務所(西部、東部、秩父) 環境科学国際センター(2名) 環境共生部環境対策課(技師) 環境保全課 環境経済部 環境保全課 環境部 環境政策課 環境対策課 浄化センター、廃棄物対策課 化学物質管理センターリスク管理課 調査研究室	15人
市民団体	彩の国環境大学修了生の会	メンバー(3名)	3人
自治会	吉野町一丁目自治会 今羽町自治会	4名 3名	7人
その他	県内企業6社	12名	12人

計54名

(3) 当日配布資料

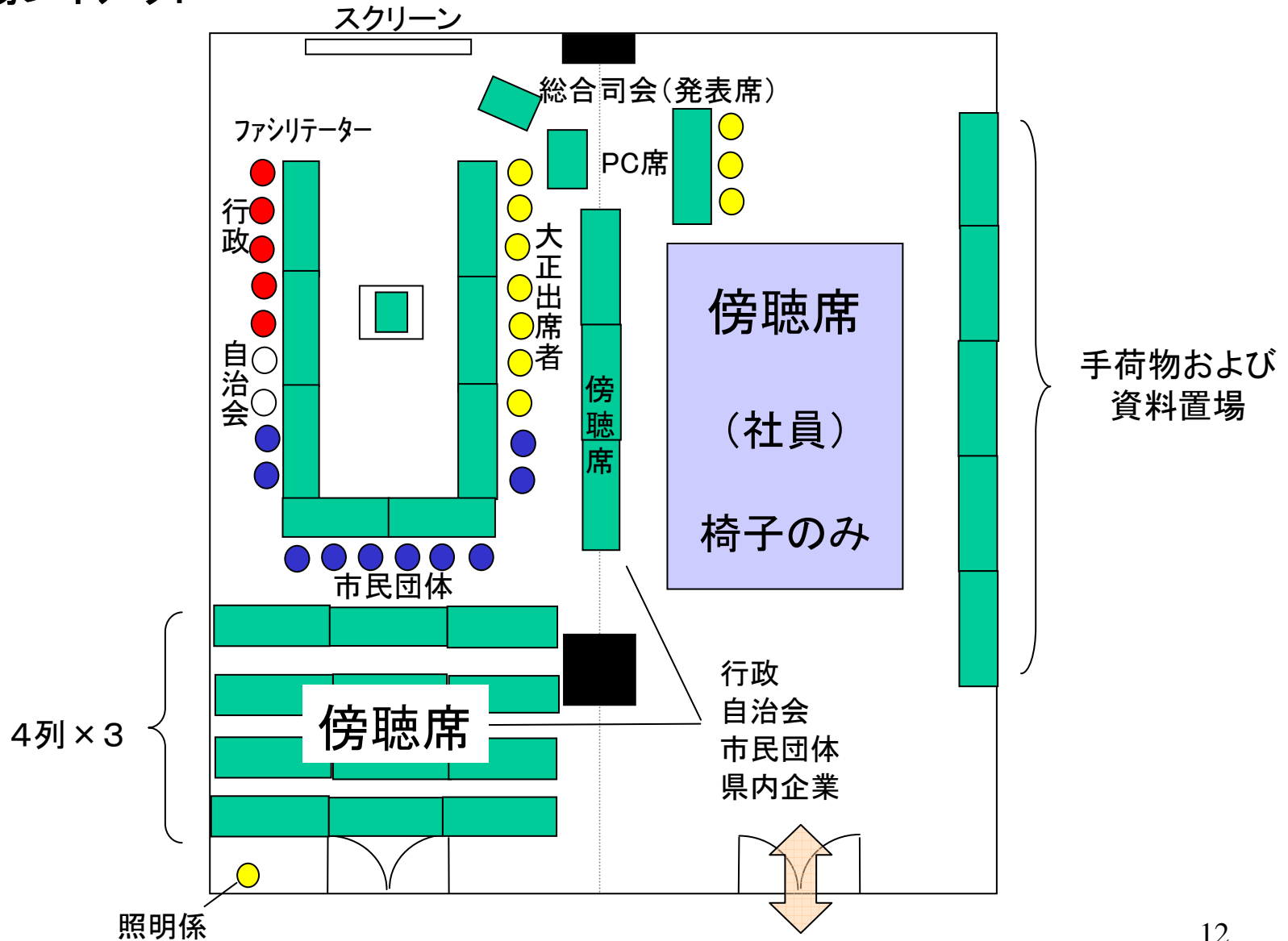
- ① 式次第
- ② 傍聴者へのお願い
- ③ 環境への取り組み(プレゼン資料40枚)
- ④ 工場パンフレット
- ⑤ 「環境だより」(イントラネット～環境HP)
- ⑥ 「社会・環境活動報告書2008」
- ⑦ 大正製薬のエコレポート
- ⑧ アンケート

【文面】

- ・傍聴者の方は、発言ができませんのでご了解下さい。
- ・携帯電話の電源はお切りいただくか、マナーモードをお願い致します。また、通話をご遠慮いただきますようご協力をお願い致します。
- ・当社敷地内は全面禁煙です。ご協力をお願い致します。



(4) 会場レイアウト



(5) 会社／工場概要説明

- ① 規模および事業内容
- ② カテゴリー別生産額
- ③ 生産品目数
- ④ 製品の紹介
 - － 一般用医薬品
 - － 医療用医薬品
 - － 特定保健用食品
- ⑤ 工場および支店
- ⑥ 会社概要
- ⑦ 工場の沿革
- ⑧ 各工場の機能と代表製品
- ⑨ 生産部門の活動
- ⑩ 生産部門のビジョン、課題
- ⑪ 工場見学での諸注意事項



(6)工場見学



A班:1号棟 → 2号棟 → 合成工場 → 品管棟

B班:2号棟 → 合成工場 → 1号棟 → 品管棟

(6) 工場見学



製剤2号棟

合成工場



(7) 環境への取り組みについて(説明項目)

- ①環境管理体制
- ②環境方針
- ③生産部門における「環境活動」の経緯
- ④化学物質の管理状況
 - －PRTR報告データ
 - －県条例による特定化学物質取扱量
- ⑤PRTR物質 削減への取り組み
- ⑥化学物質を適正に管理するために
- ⑦汚染予防への取り組み
- ⑧緊急事態への対応・予防
- ⑨地球温暖化防止(CO2排出量の削減)
 - －実施している取り組み
- ⑩製品の環境配慮
- ⑪持続可能な循環型社会を目指した取り組み
- ⑫コミュニケーション
 - －外部コミュニケーション
 - －内部コミュニケーション

化学物質に関する内容を詳しく



(7) 環境への取り組みについて(パワーポイント資料～抜粋)

化学物質の管理状況

2007年度 PRTR報告データ

以下の3物質について届出

2007年度 PRTR集計データ

No.	化学物質名称	取扱量	排出量				移動量	
			大気	水域	土壌	埋立	下水道	廃棄物等
12	アセトニトリル	370,000	65	0	0	0	3,000	360,000
95	クロロホルム	16,000	18	0	0	0	290	15,000
227	トルエン	2,000	22	0	0	0	1.2	1,400

(単位:kg)

主な用途

アセトニトリル: 原薬製造用途、試験・研究用途

クロロホルム: 試験・研究用途

トルエン: 試験・研究用途、ガソリン含有分、原薬製造用途

(7) 環境への取り組みについて(パワーポイント資料～抜粋)

1. アセトニトリル

(概要)

構造式: CH_3CN

エーテル様臭気のある無色透明の液体

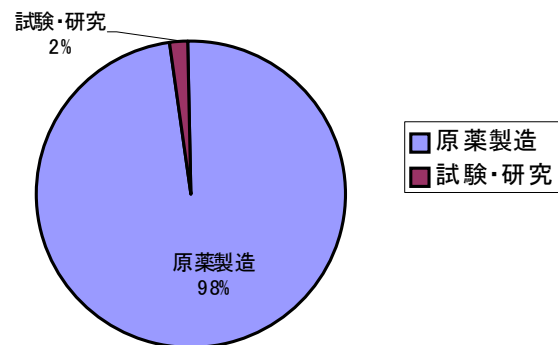
医薬用外劇物

(2007年度 アセトニトリル取扱量および移動排出量)

(単位: kg)

No.	化学物質名称	取扱量	排出量				移動量	
			大気	水域	土壌	埋立	下水道	廃棄物等
12	アセトニトリル	370,000	65	0	0	0	3,000	360,000

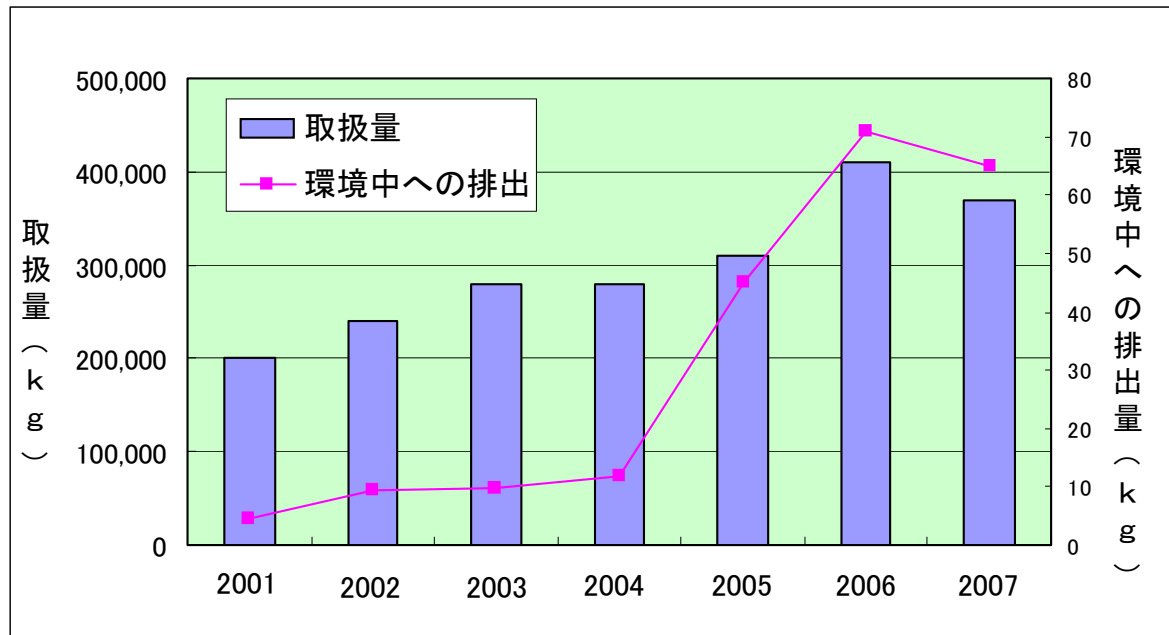
(当社における用途)



主として、医薬品原薬製造用
試験研究用 分析機器溶媒と
して利用

(7) 環境への取り組みについて(パワーポイント資料～抜粋)

(アセトニトリル 取扱量、排出量の推移)



- ・医薬品原薬製造量の増減に伴い、取扱量が増減
- ・取扱いの大部分は、再生利用
- ・2005年に原薬製造方法変更に伴い、排出量が増加
(但し、ピリジンの使用を廃止できている)

(7) 環境への取り組みについて(パワーポイント資料～抜粋)

PRTR対象物質 削減への取り組み

2001年届出開始以降、以下の3物質が条例報告対象量未満に

1. ダイオキシン類

2002年 廃棄物焼却炉撤去に伴い、排出ゼロに

2. ピリジン

2005年 医薬品原薬製造工程変更に伴い、使用停止、
報告対象量未満に

3. キシレン

2006年 ガソリン使用量削減により、報告対象量
未満まで削減

(8)意見交換会(円卓会議)の様子



(9)意見交換会での質問事項(主なもの)

①化学物質

—PRTR対象物質の削減への取り組み、特定の化学物質の取扱いの有無、など

②廃棄物

—製品包装材の簡素化、最終埋立処分量関連、患者などが使い残した薬、など

③公害防止(大気・水質)

—大気汚染防止法関連、排水BOD、など

④法令順守

—県や市への提出書類の内容、法規制と自主基準の関係、など

⑤省エネルギー

—エコアップ宣言、エネルギー使用量(原油換算)、モーダルシフト、など

⑥環境教育

—個人の地域・家庭での活動等の支援のシステム、など

⑦EMS、緊急事態

—緊急時の化学物質流出防止方法、著しい環境側面(定常・緊急時)、など

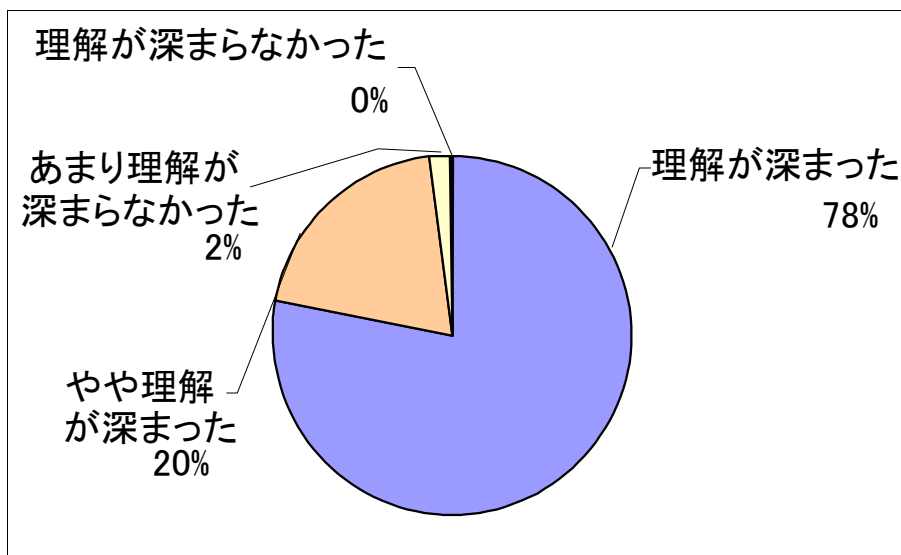
⑧地域コミュニケーション

—地域社会・住民との関係、クレーム対応方法、地域交流、など

埼玉県、さいたま市への質問もあり

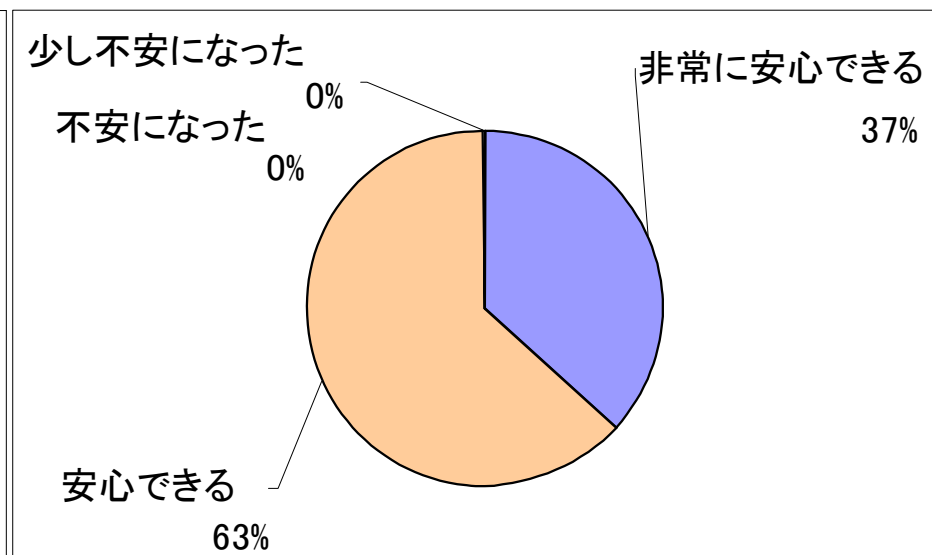
Q1

当社の環境への取り組み説明や、意見交換会により、当社の環境への取り組みについてのご理解は深まりましたか？



Q2

当社の環境への取り組みについて、どう感じられましたか？



「理解が深まった」、「安心できる」との評価をいただいた

自由記述欄(抜粋)

【行政】

- ・今後とも御社の環境への取り組みを地域に広めて行って下さい。
- ・企業の取り組みが良く判った。あらゆる分野の質問に的確に回答いただいて感心させられた。
- ・取り組んでいる環境配慮について良く伝わってきました。
- ・**地元住民をもっと中心に討議**されればより望ましい。
- ・次回は(修了生の会のような質問もよいですが)**地元の方との素朴なコミュニケーションを交わしていただきたい**と思います。
- ・このようなコミュニケーションの場で、最初にPRTRデータの話がされるとは思わず、驚きました。住民代表の皆様もとても良く勉強されているようで、先進的なリスクコミュニケーションを実施されていると感じました。
- ・社員の方の環境意識の高さに感心しました。
- ・**ネガティブなデータも取り扱う**ともっと良いです。

自由記述欄(抜粋)

【市民団体】

- ・会社関係者が30名近く集まり、対応された点に感謝します。会議室温が26℃と少し暑かった。CO2削減ならば、20℃が望ましいと思う。「エコライフDAY 2008冬」にも、ぜひともご参加願います。
- ・御社がずいぶん前から環境への配慮をされており、それが高いレベルになっていることがわかりました。日常化されているだけでなく、さらにCO2削減等努力されており、素晴らしい会社ですね。
- ・地域住民への配慮もされており、多くの会社が見習ったら良いと思いました。
- ・環境、安心、安全は全ての企業に求められるもので、情報公開は企業の社会的信頼を得ることになり、コミュニケーションに力を入れてもらいたい。
- ・大正製薬さんの工場見学は有意義だった。地元2自治体会長のご意見も工場を受け入れている地元の方の誠意あるご意見だった。

自由記述欄(抜粋)

【県内企業】

- ・御社の社会的貢献に大変感心いたしました。
- ・環境取り組みのレベルが高い。内容を参考にさせていただく。
- ・地元である自治会よりの参加者をもう少し増やした方が良いと思います。
- ・コミュニケーションの説明および工場見学させていただき、ありがとうございました。
- ・大変素晴らしい席でした。ありがとうございます。

一言で言えば、「案ずるより産むが易し」

【良かった点】

- ・ステークホルダーの方々から、**貴重なご意見をうかがう良い機会**になった
- ・開かれた工場にしようという認識がさらに深まった
 - －地元自治会の皆様の工場見学会を開催(2009年度、土祝日)
- ・当社の意見交換会出席者の、**環境意識のさらなる向上**に繋がった
- ・当社の環境月間(2月)のイベントのとして開催し、社員の**環境教育の場**になった

【認識させられた点】

- ・意見交換会での**ファシリテーターの役割**は極めて重要
(今回は、埼玉県様に上手く進行していただいた)
- ・良き相手があれば、2～3年に1回は「環境コミュニケーション」を開催しても良いかも
 - －社員教育の良い機会であるとともに、自分達の環境活動を整理できる
 - －双方向コミュニケーションを環境活動に反映できる

【課題点】

- ・「会社／工場概要説明」、「工場見学」、「環境への取り組み説明」、「意見交換会」を半日で実施するのはかなりタイト。**時間配分を事前によく考えておく**とともに、実施当日は必要に応じて柔軟に対応する必要がある
- ・基調講演を入れる場合は、午前中から始める必要がある
- ・事前勉強会で、製造全般(ものづくり…当社の場合は、医薬品製造)の簡単な説明があった方が、より深掘りした意見交換会になるかもしれない

【その他】

- ・**環境部署の責任者が主導的役割を果たす**必要がある
- ・時間配分、プレゼン項目、見学コースなどを含め、**事前に双方でよく打ち合わせ**をしておく必要がある

特集1

「大正製薬 環境月間」の取り組み

当社では毎年2月を環境月間として、環境に関する様々な活動を行っています。その取り組み内容をご紹介します。

大正製薬 環境コミュニケーション

2009年2月18日に、大宮工場にて「環境コミュニケーション」を開催しました。当社では初の試みです。

「環境コミュニケーション」とは、企業の「環境」に関する取り組みを、社長、行政、事業者で共有し、相互の理解を深めるための会合です。

意見交換会では、埼玉環境協会若空再生課の進行のもと、出席者から化学物質管理、製品の環境配慮、廃棄物、地球温暖化などに関する多岐に渡る質問が寄せられました。それに対し当社の取り組みを説明・説明しました。

参加者の方には聞いたアンケートでは、当社の取り組みに対して、「理解が深まった」、「安心できる」との評価

をいただきました。また、次ページのようにご意見もいただきました。

参加者

- ▶ 「新」国産地大生協学生(会)
- ▶ 埼玉県会の方々
- ▶ 内閣府系、その他関係機関の関係企業より 20社以上

スケジュール

- ▶ 当社の説明
- ▶ 工場見学(環境対策、ドリンク機、廃棄物回収)
- ▶ 会場への取り組み説明
- ▶ 日本赤十字会意見交換会



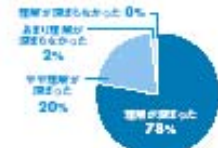
工場見学(新築北口工場)



意見交換会

当日の参加者のアンケート結果

Q1. 当社の環境への取り組み説明や、意見交換会により、当社に対するご理解は深まりましたか？



Q2. 当社の環境への取り組みについてどう感じられましたか？



参加者からいただいた評価とご意見

- ▶ 企業の取り組みが良かった。あのゆるやかな雰囲気の中で話を聞いたので安心できた
- ▶ 会場、安心、安全なすべての企業に求められるもので、情報公開は企業の社会的信頼を高めることになり、コミュニケーションに力を入れてほしい
- ▶ 地方は自治体からのご意見も、工場を受け入れている地方の方にも届くものだった
- ▶ 地元で働く自治体からの参加者をもっと増やしたい方が多いと思います

ステークホルダーの方々から、貴重なご意見をうかがう良い機会となりました。

なお、「大正製薬 環境コミュニケーション」の様子は、かたや市のホームページでも紹介されています。

環境家計簿

従業員の家庭から削減される二酸化炭素の削減を意識してもらうことを目的として、「二酸化炭素削減チェック」と題した環境家計簿に取り組めました。

- ・すでに削減していた二酸化炭素排出量
- ・新たに削減できた二酸化炭素排出量

に分けて集計した結果は、右上の通りです。家庭での削減活動がさらに身近に感じてもらったため、参加者の中から検査でエコグッズ(車4車充電機2個と充電器のセット)を差ししました。

項目	削減できた二酸化炭素排出量 (kg)	削減できなかった二酸化炭素排出量 (kg)
家族1人あたり削減できた二酸化炭素排出量	1,000	0
家族1人あたり削減できなかった二酸化炭素排出量	0	1,000
家族1人あたり削減できた二酸化炭素排出量(割合)	100%	0%
家族1人あたり削減できなかった二酸化炭素排出量(割合)	0%	100%
削減できた二酸化炭素排出量(割合)	100%	0%
削減できなかった二酸化炭素排出量(割合)	0%	100%
削減できた二酸化炭素排出量(絶対値)	1,000	0
削減できなかった二酸化炭素排出量(絶対値)	0	1,000
削減できた二酸化炭素排出量(絶対値)の割合	100%	0%
削減できなかった二酸化炭素排出量(絶対値)の割合	0%	100%
削減できた二酸化炭素排出量(絶対値)の割合(家族1人あたり)	100%	0%
削減できなかった二酸化炭素排出量(絶対値)の割合(家族1人あたり)	0%	100%
削減できた二酸化炭素排出量(絶対値)の割合(家族1人あたり)の割合	100%	0%
削減できなかった二酸化炭素排出量(絶対値)の割合(家族1人あたり)の割合	0%	100%
削減できた二酸化炭素排出量(絶対値)の割合(家族1人あたり)の割合の割合	100%	0%
削減できなかった二酸化炭素排出量(絶対値)の割合(家族1人あたり)の割合の割合	0%	100%
削減できた二酸化炭素排出量(絶対値)の割合(家族1人あたり)の割合の割合の割合	100%	0%
削減できなかった二酸化炭素排出量(絶対値)の割合(家族1人あたり)の割合の割合の割合	0%	100%

二酸化炭素削減家計簿シート

環境家計簿 集計データ

参加者: **274名**

【参加者の平均値】

1)すでに削減していた二酸化炭素排出量 **769g/日**

2)新たに削減した二酸化炭素排出量 **251g/日**

全従業員に拡大推計すると

年間約 **2,000** トンの削減

事業所周辺清掃

例年大宮工場で行っていた「周辺清掃」を全事業所に展開しました。

2月16日を「全社一斉ケレンアップデー」として、この日を中心に本社、8支店、3工場、総合研究所が、各事業所周辺をはじめ、近隣の公園や最寄駅までの路上などを一斉に清掃しました。

総勢280名余りの社員が参加しました。



周辺清掃(本社)

その他の取り組み

そのほかにも、生産部門を中心に

- ・廃棄物分別パトロール
- ・省エネルギーパトロール
- ・通勤ノーマーカーデー(p.35参照)

などにも取り組めました。

ボトムアップで削減活動のアイデアが出てくる「場」を、環境月間活動が率先して構築することが環境経営の基本であり、今後も削減活動に全社で取り組めます。

実施に向けての準備(2011年～第2回)

【前回との相違点】

- ・完全に**当社主催**で実施

1回開催したことで、実施に向けての段取りの理解が深まった

- ・出席者、傍聴者が大幅に増える見込みのため、広い会場(工場ホール)で開催

- ・ファシリテーター(座長):埼玉県⇒さいたま市

- ・意見交換会時に**インタープリター(解説者)**をお願いした

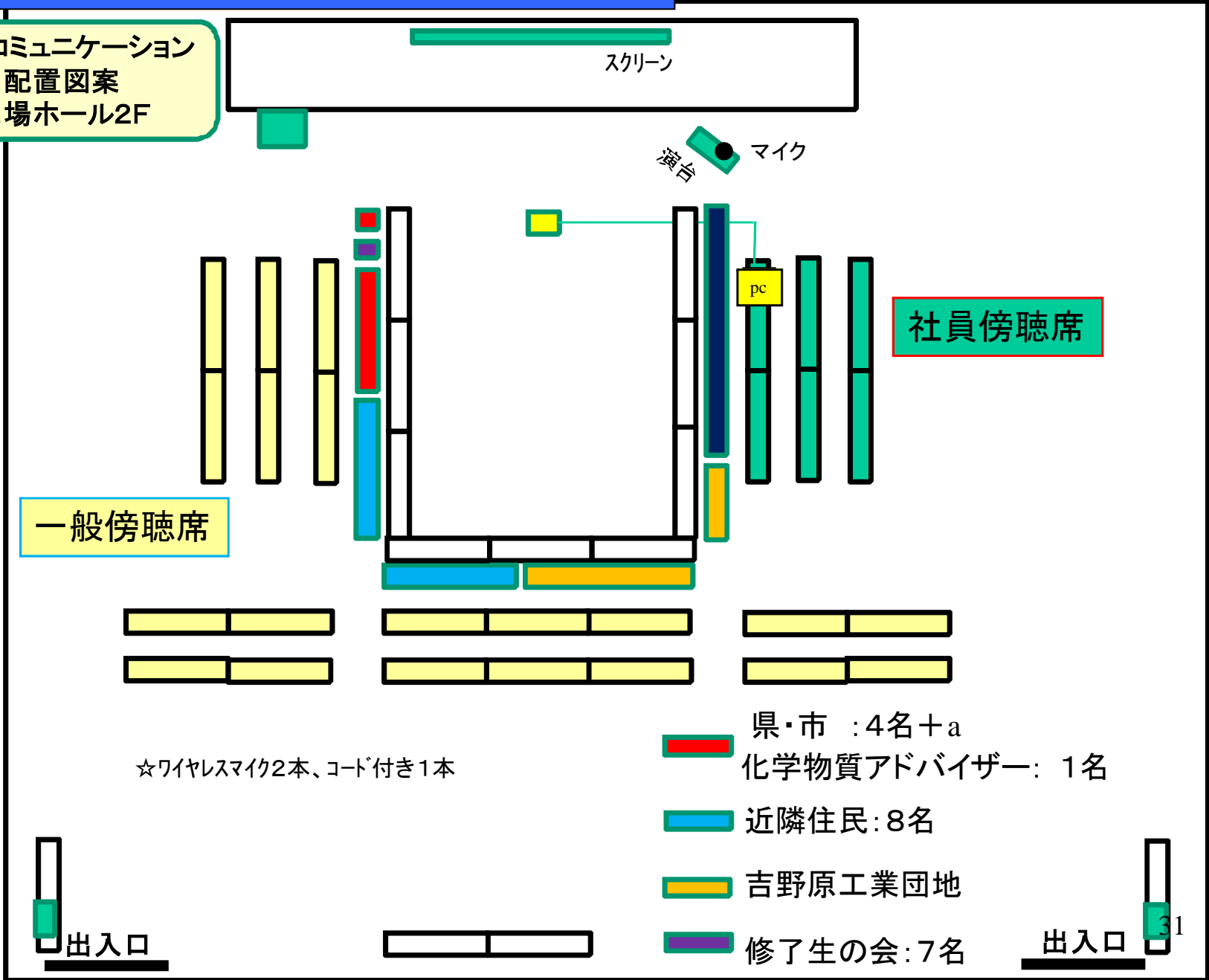
(環境省事業 化学物質アドバイザー)

- ・市民団体の事前勉強会への出席に加え、**地元自治会との事前勉強会**を設定

地元自治会との対話に主眼を置いたコミュニケーションに

実施に向けての準備(2011年～第2回)

環境コミュニケーション
配置図案
工場ホール2F



スクリーン

マイク

演出

pc

社員傍聴席

一般傍聴席

- 県・市 : 4名+a
- 化学物質アドバイザー: 1名
- 近隣住民: 8名
- 吉野原工業団地
- 修了生の会: 7名

☆ワイヤレスマイク2本、コード付き1本

出入口

出入口 31

実施に向けての準備(2011年～第2回)

2010年1月12日	◇環境コミュニケーション(第2回)を2011年2月に開催すべく、 年度計画に盛り込む (生産本部・環境部)
2010年11月	◇環境コミュニケーション開催の社内手続き
2011年1月～2月	◇ 生産本部・部長会でアナウンス 、決定したことから逐次連絡(日程、当日スケジュール、来場者、意見交換会出席者、など)

【実施に向けての打ち合わせ】

2011年12月	◇ インタープリター派遣の申請 (環境省 化学物質アドバイザー派遣事業事務局)
2011年1月6日	◇埼玉県庁を訪問 ・出席のお願い(快諾いただいた) ◇さいたま市役所を訪問 ・出席および ファシリテーターのお願い (快諾いただいた)
2011年1月8日	◇「彩の国 環境大学修了生の会」の 事前勉強会 に出席 ・『社会・環境活動報告書』や資料に基づき、説明と質疑
2011年1月21日	◇ インタープリターとの打合せ
2011年2月4日	◇ 地元自治会との事前勉強会 を設定(さいたま市同席)
2011年2月16日	◇「環境コミュニケーション(第2回)」開催

当社の考える、【実施に向けてのポイント】

【押さえておくべき事項】

- ・社内他部署を上手く巻き込む
- ・プログラム検討段階で、**意見交換会の時間をある程度確保する**（可能なら1時間以上）
- ・**市民団体の事前勉強会**への出席、**地元自治体との事前勉強会**の設定は必要
- ・ファシリテーター、インタープリターと事前によく**打ち合わせ**をしておく必要がある
- ・必要な支援は行政にお願いする
そして何よりも…
- ・**環境部署の責任者が主導的役割を果たす必要がある**
…環境実務担当者の育成にもつながる

【第2回 大正製薬 環境コミュニケーション】

日時:2月16日(水) 13:00~17:00

会場:当社大宮工場 工場ホール

交通:JR大宮駅から埼玉新都市交通(ニューシャトル)乗車9分、今羽駅下車徒歩10分